

日にち 令和5年5月31日(水)

時間 9:30~

場所 庁議室

令和5年度

第1回 佐賀市DX推進本部会議

本日のアジェンダ

- (1) 佐賀市のスマートシティ・DX推進方針
- (2) 令和5年度DX推進の取り組み
- (3) 佐賀市公式スーパーアプリの現状と今後の展開
- (4) スマートシティ推進協議会の設置
- (5) 基幹情報系システムの標準化

佐賀市の取り組み

◎デジタルサービスの創出

- ①佐賀市公式スーパーアプリ構築
- ②デジタルサービス検討部会の実施
→各分野のデジタルサービスの整理・検討



◎データ連携基盤（都市OS）の構築

- ①データ連携基盤の構築
- ②ビジネスインテリジェンス（BI）ツールの導入



◎デジタル・DX人材の育成

- ①EBPM人材育成、議事録作成システム等研修
- ②各課にDX推進員を配置



◎『スマートシティ』の推進により期待される効果・成果

Well-Being
利便性の向上
暮らしやすさ

業務の効率化
生産性の向上

シビックテック
最新技術×行政×市民

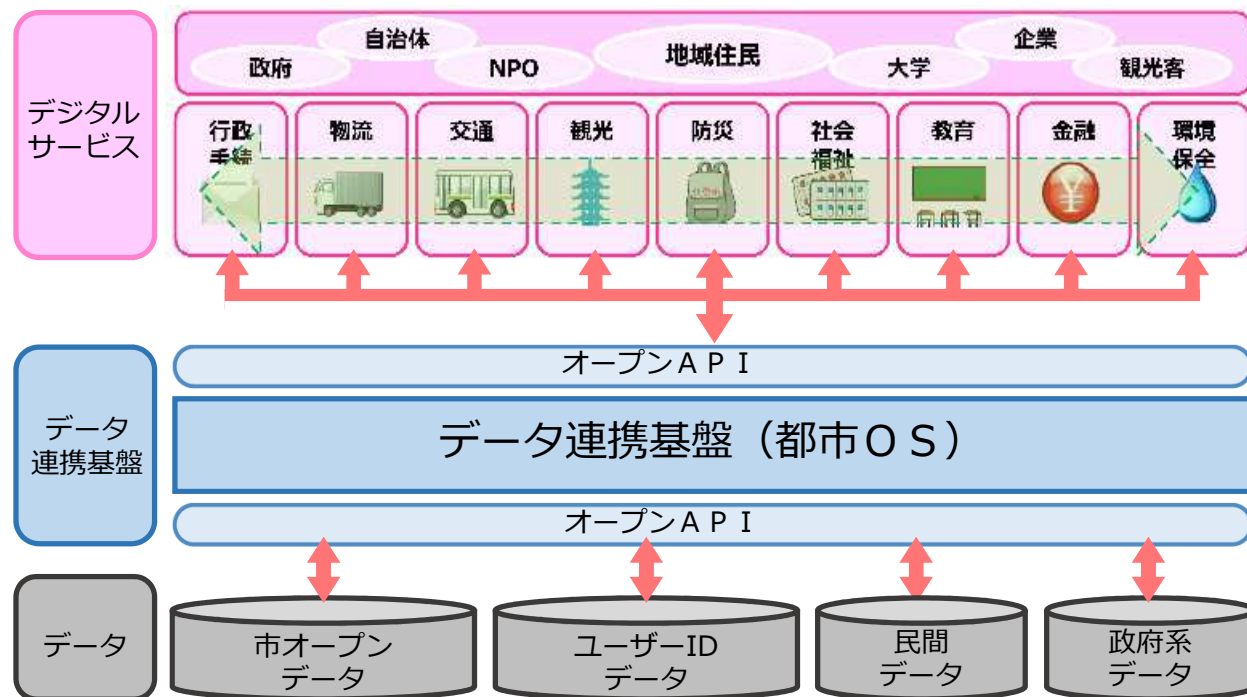
地域産業活性化
民間企業との連携

EBPM
証拠に基づく
政策立案



初代「統計院長」
大隈重信侯

スマートシティの構成要件



事業名	事業概要	R5年度予算
スーパーアプリ第2期構築	学校出欠連絡ミニアプリ、企業版ミニアプリ、既存の民間アプリとの連携等	90,000千円
スマート申請サービス構築	オンライン申請の拡充、市県民税等口座振替手続き、粗大ごみ回収のネット予約等	23,301千円
図書館ミニアプリ構築	アプリからの資料検索・予約・延長、自動貸出機のアプリ対応等	43,860千円
地域版ミニアプリ構築	子どもクラブ等の情報共有促進、地域情報の配信等	29,574千円
データ連携基盤構築・データ分析	各種データを活用した地域課題の抽出、データ連携による対策案の検討	15,000千円
EBPM・DX人材育成研修	地域情報化アドバイザー等デジタルの専門家による研修等	8,436千円
防災DX	災害情報投稿プラットフォーム、情報伝達手段一斉発信システム等 ※債務負担行為（R5～R7年度）222,354千円	66,706千円
3次元測量システム導入	スマートフォンの3次元スキャンを活用した迅速な災害時復旧	1,954千円
ICTを活用した見守りサービス	Bluetooth等を導入した子どもや高齢者の見守り	—
交通DX	SAGA2024国スポ・全障スポに関連したバス乗車券のデジタルチケット発行や自動運転バスの実証実験等	29,960千円
スマート農業	スマート化による担い手育成・確保、最先端の農業機器を活用した実証実験等	7,747千円

令和5年度DX推進の取り組み

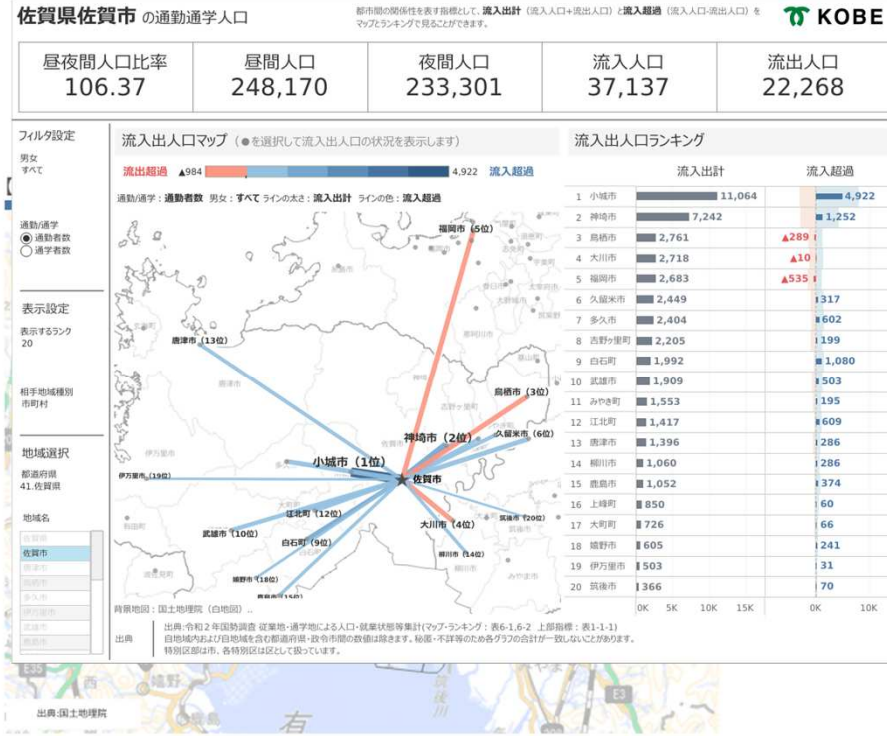
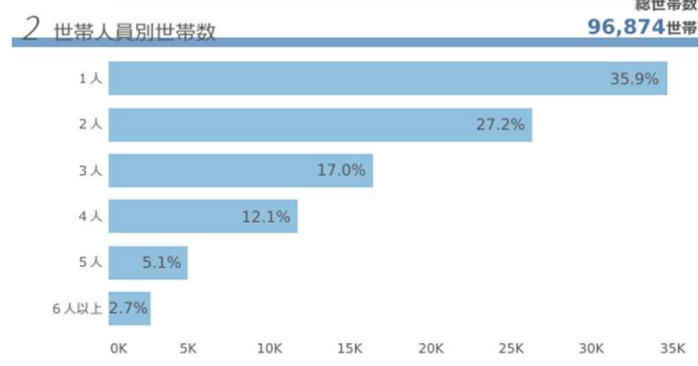
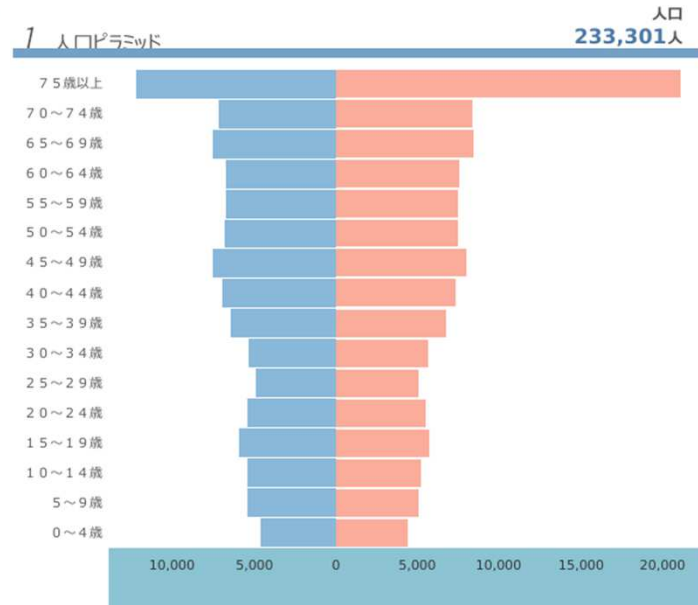
BI（ビジネスインテリジェンス）ツールの導入

活用の利点

- ① データの可視化、見える化
- ② データの一元管理
- ③ オープンデータ化
- ④ データ分析の内製化 等

令和2年度 国勢調査ダッシュボード全国版

【人口ピラミッド・各種世帯数（世帯人員別、住宅所有関係別、住宅の建て方別） データ】



出典：神戸市ウェブサイト
<https://www.city.kobe.lg.jp/a47946/data.html>

令和5年度DX推進の取り組み

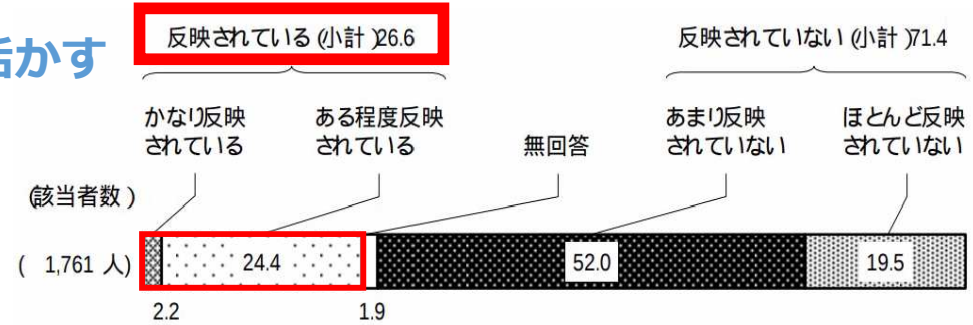
EBPM※人材育成 ※エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング (証拠に基づく政策立案)

データを適切に利用できる人材を育成し、政策立案に活かす

政策立案時

あなたは、全般的にみて、国の政策に国民の考えや意見がどの程度反映されていると思いますか？

- ・ 民意や社会の状況をキメ細かく、タイムリーに把握するには限界
- ・ 「大きな声」「身近な声」「理解しやすい声」を中心に決まりがち



出典：「社会意識に関する世論調査」(令和4年12月調査) 内閣府 <https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-shakai/gairyaku.pdf>

⇒ ⚠️ 政策に偏りが生まれる可能性

政策効果検証時

成果指標を設定→実績を計測して評価
数値による指標は客観的でわかりやすい

⇒ ⚠️ 政策と計測した効果に本当に因果関係があるか？
実効的な効果検証が必要



限られた資源・予算を有効活用し、政策効果を最大限に発揮させる

令和5年度DX推進の取り組み

デジタルサービス創出検討部会

◎設置の目的

- ① データを活用した新しいデジタルサービスを創出する。
- ② 事務改善・部署間連携を支援する。

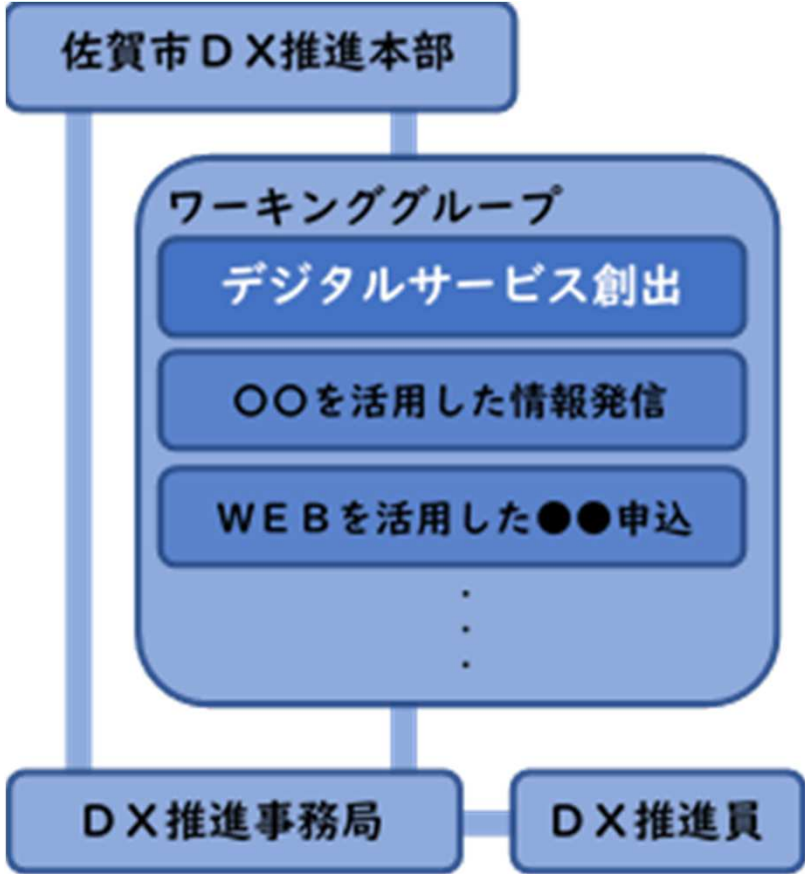
◎メンバー

昨年度から継続：9名
本年度から参加：7名 計16名

<内訳>
総務部1、政策推進部2、経済部1、農林水産部1、都市戦略部1、建設部1、
環境部1、市民生活部1、保健福祉部1、子育て支援部1、地域振興部1、
国スポ・全障スポ推進部1、教育部1、交通局1、上下水道局1

◎検討内容（予定）

- ・データ連携基盤（子育て関連から）
- ・生成AI（ChatGPTなど）
- ・地域ポイント、地域通貨



佐賀市公式スーパーアプリの現状と今後の展開

今後のバージョンアップのスケジュール

R5年

6月

★ 正式リリース(6/11)

- がばいサカえ～る申込
- お知らせ機能リリース
- ミニアプリ並べ替え機能
- 電子申請画面の更新

9月

● 第二弾リリース (予定)

- 佐賀市民証 (ID)リリース
- がばいサカえ～るキャンペーン
- 子育てミニアプリ
- テンプレート型ミニアプリ
- HPダッシュボード化
- 企業版ミニアプリ①
- 地域版ミニアプリ①

つながるさがしPush配信
デジタルマップ

12月

● 第三弾リリース (予定)

- 学校出欠ミニアプリ
- 図書館ミニアプリ
- 粗大ごみ予約受け付け
- 市県民税口座振替申請

- 企業版ミニアプリ②
- 地域版ミニアプリ②

地域ポイント
イベント参加フォーム



- ✓ 各部局でのミニアプリ化の検討
- ✓ 市民・地域の課題解決やニーズを踏まえたミニアプリの検討

6月11日（日）のバージョンアップの内容

◎ お知らせ通知

- ▶ 新着情報をポップアップお知らせ

◎ ホーム画面をカスタマイズ

- ▶ 自分のお好みのミニアプリを追加・並び替えができる

◎ 佐賀市プレミアム付地域振興券と連携

- ▶ がばいサカエーるPay地域振興券（第2弾）の電子券・紙券の申し込みができる

画面（イメージ）



ポップアップ通知

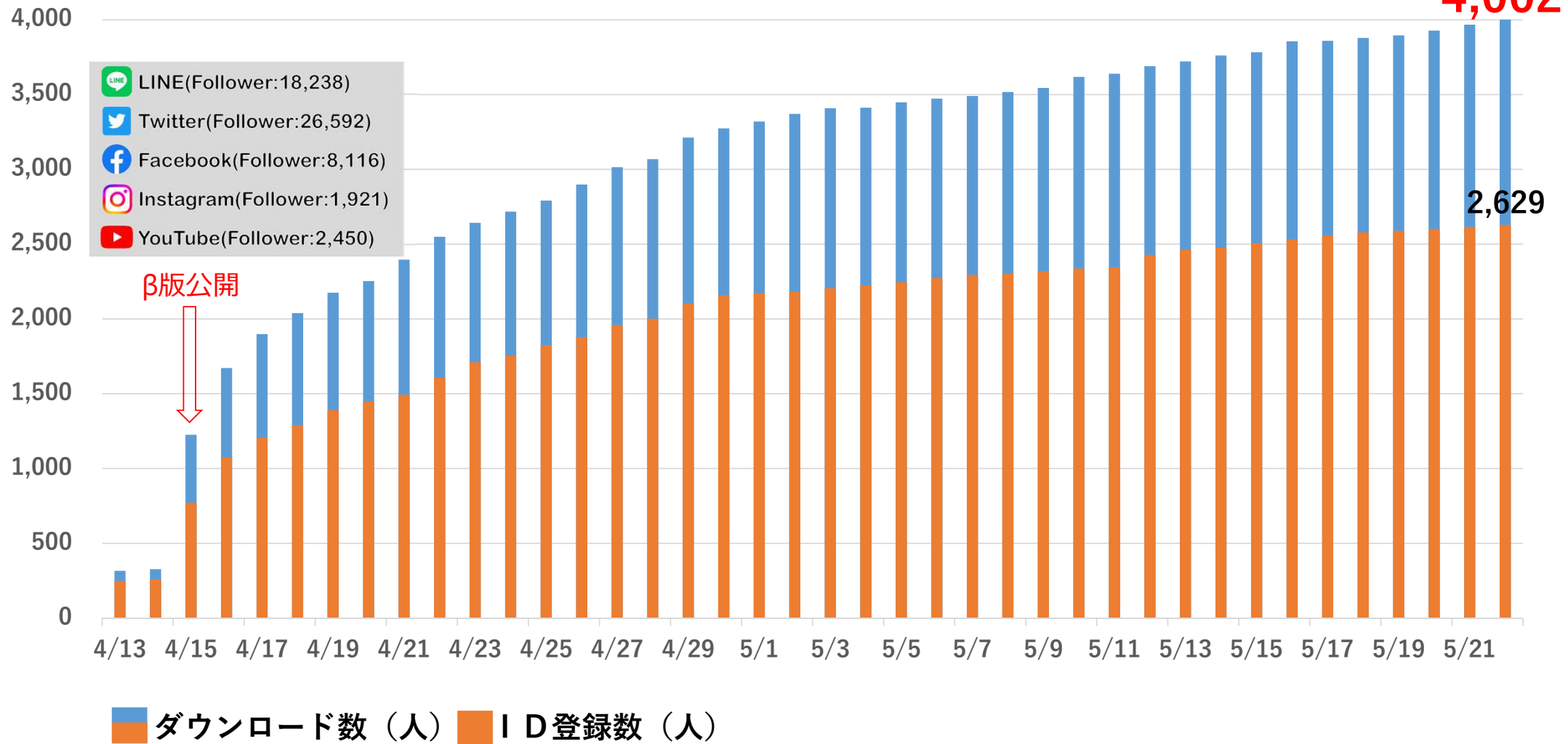


並び替え機能

今後も機能を拡張し、便利な機能を続々追加！

佐賀市公式スーパーアプリの現状と今後の展開

ダウンロード数及びID登録者数の推移



チラシの設置・配布

くらしが
どんどん便利に！
今すぐダウンロード！

佐賀市公式スーパーアプリ

佐賀市のいろいろ、
アプリひとつでかんたんに
たとえば...

- ごみの収集日をお知らせ！
- 図書館ミニアプリで本を予約！
- 防災情報をタイムリーにお届け！
- 市役所に行かずに電子申請！
- 公共施設予約も可能！

今後も使える機能がどんどん増えます！

佐賀市IDを作成すると、もっと便利に使えます！

ID登録手順

- 佐賀市IDを作る」をタップ
- アカウント情報入力
- 確認メールが届きました

【お問合せ】DX推進課
dx@city.saga.lg.jp

部局名	枚数	配布・設置箇所
総務部	240	窓口、会議
政策推進部	2,000	窓口、会議、企業
経済部	645	バルーンミュージアム、エスプラッツ、MAIC、窓口など
農林水産部	1,250	道の駅「大和」そよかぜ館、窓口など
都市戦略部	1,170	バスセンター、窓口など
建設部	330	水ものがたり館、窓口
環境部	730	ひがさす、エコプラザ、窓口など
市民生活部	1,150	総合案内アイスクエアビル、つくし斎場、窓口など

部局名	枚数	配布・設置箇所
保健福祉部	2,000	保健福祉会館、窓口、イベントなど
子育て支援部	480	児童館、窓口など
地域振興部	4,600	文化会館、公民館、窓口、イベントなど
国スポ・全障スポ推進部	500	イベント
教育部	1,400	青少年センター、図書館、イベントなど
交通局	1,000	窓口、会議、関係団体、バス車内
上下水道局	450	窓口、イベント
合計	17,945	

広報媒体 Coming soon

- ✓ 名刺サイズのチラシ
- ✓ スーパーアプリ二次元コード入り「名刺の台紙」

スマートシティ推進協議会の設置

設置目的

行政・地域・市民が一体となって、地域経済の活性化を図り、暮らしや生活がより便利に、より快適に、そして生活に合わせた多様で柔軟な働き方ができるような『スマート・ローカル！ SAGACITY』の実現に向けた取り組みを推進

協議内容

- ① 地域課題の解決に向け、具体的な「デジタルサービス」の実装を検討
- ② 市民、企業、地域、行政のデジタルタッチポイントである「佐賀市スーパーアプリ」を活用した取り組み
→地域課題を解決する「企業版・地域版のミニアプリ」の実装

協議会のメンバー

メディア、金融機関、大学、学生、IT企業、
地域団体、行政等

協議会の設置時期

令和5年7月（予定）



- ✓ **令和5年度は、「スーパーアプリの活用」にテーマを絞って取り組む**
- ✓ **地域課題を解決できる「デジタルサービス」の実装を目標とする**

参考：企業版・地域版ミニアプリイメージ

佐賀市公式スーパーアプリ
トップ画面



企業版・地域版 ミニアプリ

市民の暮らしに役立つ
便利な情報を配信

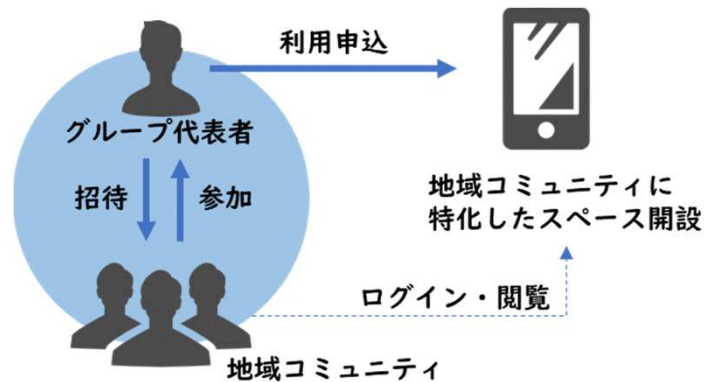
(例)

- ・〇〇新聞
- ・〇〇大学
- ・サークル掲示板
- ・イベント情報
- ・デジタルマッピング

◎地域版ミニアプリの機能イメージ

- ① 居住エリア（校区）の情報、ニュース閲覧機能
- ② イベント参加者募集フォームやアンケート機能
- ③ グループ（サークルなど）掲示板機能
- ④ 地域活動参加等に対するインセンティブ（デジタル地域ポイント等）付与機能
- ⑤ 地域情報（ランドマークや出来事など）をデータベース化したデジタルマッピング機能、など

【グループ掲示板機能のイメージフロー】



■ 基幹系情報システムの標準化とは／標準化の目標

- 1 これまでの進捗
- 2 現状の課題
- 3 標準化の全体スケジュール
- 4 標準化対応方針について
- 5 令和5年度の作業について

基幹系情報システムの標準化とは

令和7年度までに、基幹系情報システムのうち、標準化対象事務の処理にかかる情報システム（標準化対象システム）を、ガバメントクラウド上に構築された標準準拠システムに移行すること。

標準化対象事務とは：

「地方公共団体情報システムの標準化に関する法律第二条第一項に規定する標準化対象事務を定める政令」において選定された、地方公共団体で取り扱う20の事務。

国が事務手続きの「標準仕様書」を策定し、システムベンダーが標準仕様書に基づいて「標準準拠システム」を構築。全ての自治体は、期限内に標準準拠システムへの移行を求められている。

【20の事務】

住民記録、印鑑登録、戸籍、戸籍附票、個人住民税、法人住民税、軽自動車税、固定資産税、介護保険、障害者福祉、国民健康保険、国民年金、後期高齢者医療、生活保護、健康管理、児童手当、児童扶養手当、子ども・子育て支援、就学、選挙人名簿管理

標準化の目標

- ◆ コスト削減・ベンダロックインの回避
- ◆ 職員負担の軽減
- ◆ 住民の利便性向上

【用語の説明】

- 基幹系情報システム
 - … SHIPS用ネットワーク上に構築している情報システム
- ガバメントクラウド
 - … サーバー等のインフラ機能を提供するクラウドサービス（国が構築）

基幹系情報システムの標準化

1 これまでの進捗

現行業務と標準仕様書との差異分析(～令和5年度)

標準化対象システムごとに差異分析 (Fit & Gap) を実施中
標準準拠システムへの移行に伴い必要となる業務の変更内容を洗い出す

システムベンダーへの情報提供依頼(RFI)(令和5年2月)

ベンダーの標準化対応状況や実装オプション機能 (実装するか開発ベンダーに委ねられている機能) の有無等について情報提供を依頼
これとは別に随時、各ベンダーとの情報交換を個別に実施

ワーキンググループ担当者向け勉強会

クラウド利用のメリット等について理解を深めるため、ガバメントクラウドの提供事業者の1つであるAWS (Amazon Web Services) 主催のオンライン研修を受講

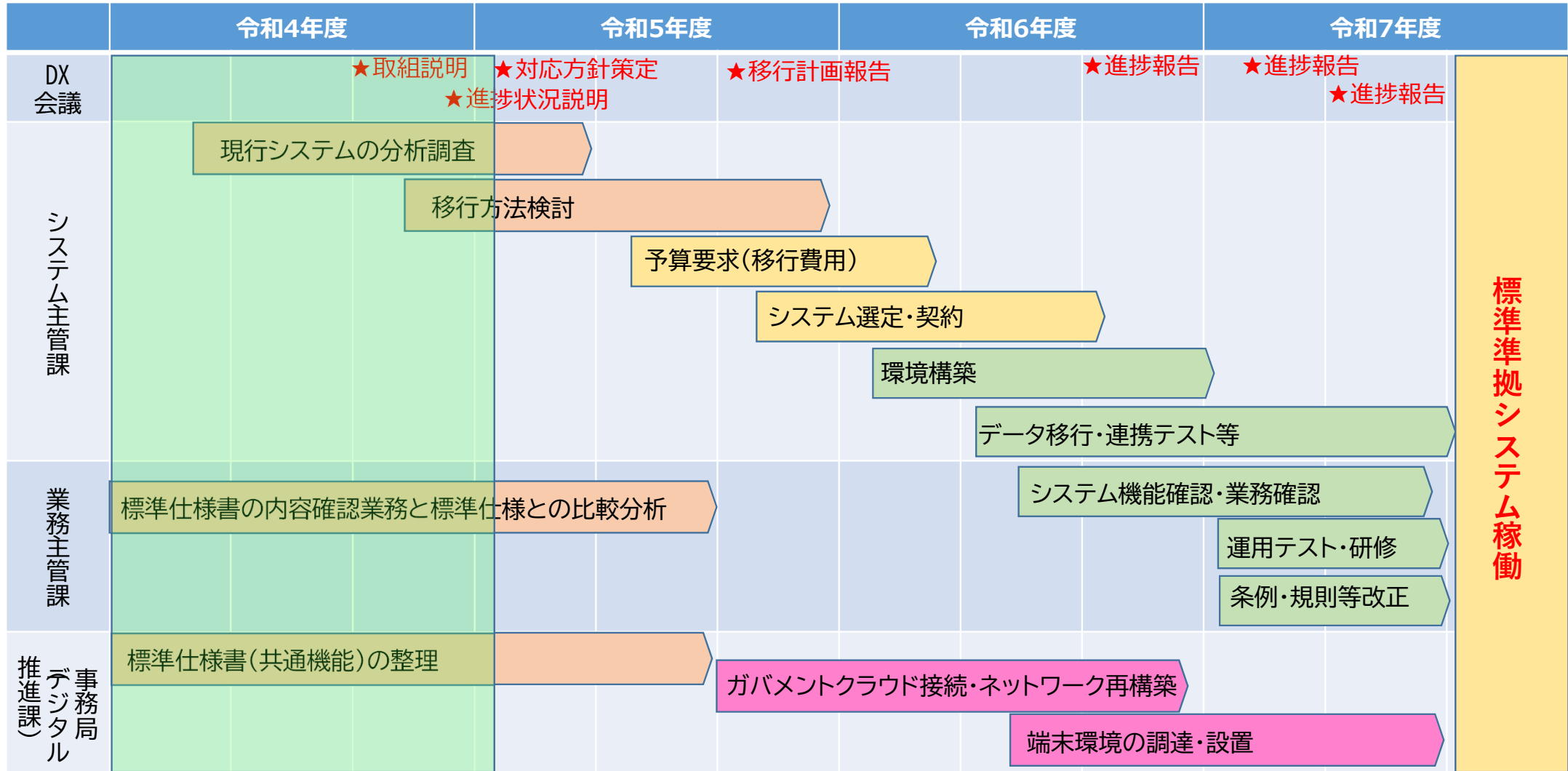
2 現状の課題

- ベンダーのSEリソース不足
 - ・ 約1,700自治体が令和6～7年度に集中的に移行を実施。早く業者を決めないと技術者がいなくなる
- 標準仕様書の不確定要素
 - ・ 各業務の標準仕様書が令和4年8月に出揃ったが、福祉分野については令和5年3月末に改版。
 - ・ 共通機能(データ連携要件・住登外など)や文字要件(外字)については引き続きデジタル庁で検討中
→仕様確定の遅れがシステム開発の遅れにつながっている
- ガバメントクラウド上での構築
 - ・ デジタル庁はシステム開発ベンダーにシステムのモダン化(各クラウド事業者のサービスに順応)を要求
- 困難なコスト積算
 - ・ 複数ベンダーから移行費用の一部(データ移行費用などを除く)について見積りを取得
 - ・ ランニングコストはR4時点で見積り提出不可 ⇒ 令和5年度上半期には提出可の予定

**「令和7年度までに標準システムへ移行」という国の目標は変更なし
上記の課題をクリアし確実に移行を実施する必要がある**

基幹系情報システムの標準化

3 標準化の全体スケジュール



4 標準化対応方針について

目的

- 本市における標準化に関する統一的な考え方を示すことで、8つの標準化対象システムを、確実かつ効率的に標準化する

対象期間

- 令和5年度から令和7年度まで(国の標準化基本方針の移行目標年度)

考え方

- 市民サービスの影響を最小限に抑え、期間内に、運用経費等の削減を目指しながら標準化する

対応方針

- 標準化対象システムごとに標準化を実施する
- 国が定める方針、手順等に準じて標準化を実施する
- ガバメントクラウドを利用して、カスタマイズを行わずに標準化を実施する

5 令和5年度の作業について

情報システム標準化事務局

デジタル推進課

進捗管理・全体調整等

進捗報告等

SHIPS WG

福祉総合 WG

滞納整理 WG

戸籍 WG

学齢簿 WG

生活保護 WG

選挙管理 WG

国保WG

(システム主管課)
デジタル推進課

(システム主管課)
福祉総務課

(システム主管課)
納税課

(システム主管課)
市民生活課

(システム主管課)
学事課

(システム主管課)
生活福祉課

(システム主管課)
選挙管理委員会

(システム主管課)
保険年金課

各システム主管課

- 調達方式等を定めた移行計画の作成
- 移行に係る予算要求
- 業者選定・契約

業務主管課

- 現行システムと新システムの差異(Gap)の洗い出し
- 新しいシステムにあわせた業務の進め方等の検討

早期に業者選定を行うために仕様の確定及び費用の積算が必要

事務の流れの再検討が必要

所属長及び部局長が積極的にスケジュール及び問題点等を把握することが重要

今後のスケジュール

年度	令和4年度	令和5年度	
1 スマートシティ構想 ・推進	スマートシティ実現の『スタートアップ期』 R4.7.26 ☆「佐賀市スマートシティ」宣言	スマートシティ推進『本格実施』 デジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプ：TYPE 2 の活用 ・佐賀市スマートシティ推進協議会（仮）設置（7月予定）	
2 取組の3本柱	①デジタルサービス創出 各種ワーキンググループ（デジタルサービスの検討） ②データ連携基盤構築 都市OS実装準備 ③DX人材育成 各課DX推進員へのDX研修	デジタルサービス実装・創出 ・各部横断的な取組 データ整理・都市OS実装（9月予定） ・データ利活用・EBPM・オープンデータ化 DX人材育成の強化 ・地域情報化アドバイザー等による研修会の実施	5月 ←→ 8月 10月 DX関連事業に関する調査 予算化に向けた協議 サマーレビュー 予算要求
3 佐賀市DX推進本部会議	第1回 7月 第2回 10月 第3回 3月 ・重点取り組み等まとめ ・DX推進進捗報告 ・R5年度の取り組み（案）	☆ 第1回 5月 DX推進の取り組み	☆ 第2回 10月 DX推進の取り組み（進捗報告） ☆ 第3回 3月 R6年度の取り組み方針（案）